

自分たちができることを実践しよう！草の人形(フクロウ)づくり

実施校：碧水小学校（阿蘇市）6年生

※H23年度モデル校プログラムより

■実施概要

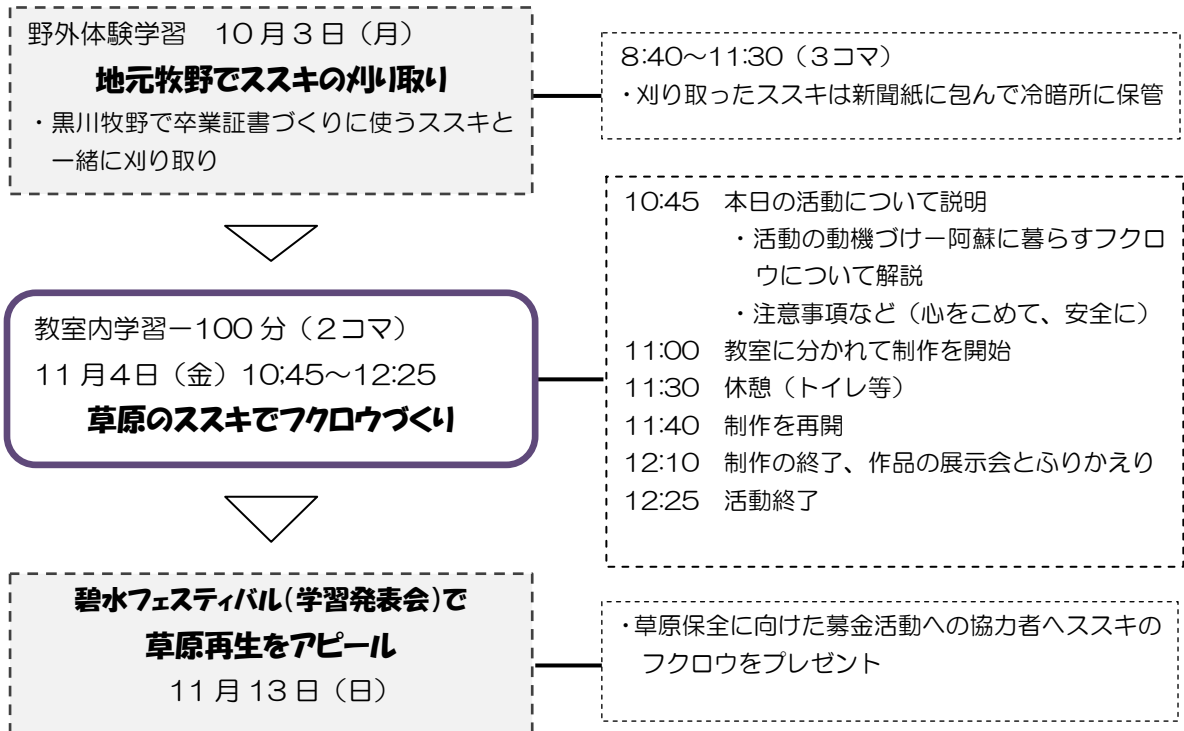
草原の草を利用することが草原保全につながることを学んだ子どもたちが、「草原を守るために自分たちができること」として、草原の草（ススキ）を使った人形づくりに取り組みました。

出来上がったフクロウは、後日開催された碧水フェスティバル（学習発表会）の中で行った草原再生の募金活動への協力者へのお礼として配られました。

■学習のねらい

- ・草原を守るために自らができることに取り組む
- ・草原の草が材料となって、人に役立つものができることを体験的に知る
- ・手を動かして、ものをつくりだすことの楽しさを知る

■学習の流れ



＜実施日＞平成23年11月4日（金）
 ＜実施時間＞10:45～12:25（2コマ）
 ＜参加者＞6年生（29名）、担任教諭
 ＜実施場所＞碧水小学校教室
 ＜講師＞担任教諭、環境省阿蘇自然環境事務所 木部直美、NPO 法人九州バイオマスフォーラム 吉田園子
 ＜準備するもの＞
 （子どもたち）はさみ、フクロウの目
 （学校）救急箱、新聞紙、ごみ袋、輪ゴム
 （コーディネーター）フクロウ制作シート、ススキ（事前に子どもたちが刈り取っておいたもの）、タコ糸、グルーガン、園芸用ビニタイ、ヒマワリの種
 ＜コーディネーター＞
 環境省 阿蘇自然環境事務所

■実施の様子

◇阿蘇に暮らすフクロウについて学ぶ

- ・阿蘇に生息する6種類のフクロウのうち「フクロウ」「アオバズク」「コミミズク」についてアクティブ・レンジャーが紹介。ススキのフクロウづくりに向けて作るもののイメージが湧いてきました。



◇フクロウづくりに挑戦

- ・見本を見せながら、制作工程に沿って説明して、作っていました。
- ・最初は要領がつかめずに難しそうなお様子でも、何回かやり直ししながら工程が進むにつれて、形ができてきて一安心。



- ・最後に目玉とヒマワリのくちばしを付ければ、個性的なフクロウたちの出来上がり



■成果など

- ・子どもによって進み方に差があり、苦勞している子どももいたが、時間内に概ね2個ずつ作ることができた。
- ・ヒモをつける場所がわかりにくく、ぶら下げるとひっくり返ってしまい、何度もやり直す子どももいた。
- ・これらのフクロウの人形は、同月に行われた学習発表会（碧水フェスティバル）の会場で草原再生の募金をお願いする際に、募金をいただいた方に差し上げるという目的があり、かわいらしいフクロウが出来上がり子どもたちは満足げだった。

留意点

- ・ススキは、刈り取った後すぐに使わない場合は、穂が開かないように新聞紙に包んで冷暗所に保管しましょう（ビニールに入れるとカビが発生します）。
- ・作業工程が何段階もあるため、工程毎の見本を作っておくとわかりやすいでしょう。